pal*system

TSUNAGU

生協・環境・社会活動報告書

2019

「ジャパン SDGsアワード」
第１回 受賞

生活協同組合パルシステム東京

ごあいさつ

私たちにできることはたくさんある

生活協同組合 パルシステム東京
理事長 松野 玲子

生協は組合員の願いを実現するのがミッションです。パルシステム東京では、食の安全、平和への願い、環境への思いなど組合員の願う社会を実現するために、人任せにせずに取り組んできました。

私たちがベースとしてきたのは多くの人を巻き込むこと。組合員の願いを実現した商品やサービスをつくりだすことで、利用するだけでなく、込められた思いを理解し共有する組合員を増やすことができます。さらに生産や流通などの過程でかかわる人も増えていきます。巻き込む人を増やすこと、つながる人をふやすこと、そして経済として回ること、それこそ社会をつくっていく原動力です。

２０１８年度は西日本豪雨、北海道胆振東部地震など大規模災害が続き、将来への社会的な不安が蔓延するなかでも、パルシステム事業、福祉事業はともに着実な実績を残すことができました。また、脱原発をめざした電力事業は大幅な進捗を示しました。ハートも胃袋も満たしていく活動と事業の強みが生かされたのだと思います。

いま、グローバル化によって、いのちや人権よりも経済が優先されるような風潮が広がりつつあります。その一方で、生協は地域で人と人をつなぐ大事なインフラとして、また持続可能な未来をつくる担い手として、大きな期待を集めています。

過去と未来をむすび、生産者と消費者などの立場や国境をこえて、想像力を持ってつながることが、未来を変えていく一歩であることを信じています。

INDEX

パルシステム東京について 1
- ごあいさつ 1
- 生活協同組合とは 2
- パルシステム東京の理念 2
- パルシステムグループ 2
- 組織概要 2

パルシステムの事業 3
- 宅配・電気 3
- 福祉 5

「食」の取り組み 7
- ❶ 安全な「食」を求めて 7
- ❷ 商品の価値を伝える 9
- ❸ 食料自給率の向上をめざして 10

「環境」の取り組み 11
- ❶ 地球温暖化を防ぐために 11
- ❷ 一人ひとりのくらし方を見直す 13
- ❸ 身近な自然を守る 14

「人」の取り組み 15
- ❶ 地域とつながる 15
- ❷ 平和なくらしを守るために 17
- ❸ 被災地の復興を支援する 18

働く環境づくり・人材育成 19
- リスクマネジメント 20

地図で見るパルシステム東京 21

数字で見るパルシステム東京 23

写真で見るパルシステム東京 25

生活協同組合とは

パルシステム東京は生活協同組合です。生活協同組合（以下、生協）は、組合員の生活の文化的・経済的改善向上を図ることを目的に設立された組織です。
一般の企業と違い、組合員自らが出資し、自分たちのくらし全般をよくしていくためにそれぞれが思いを寄せ合いながら組織の方針を決め、それに基づいた商品・サービスを利用します。組合員一人ひとりが、生協という組織の「主体」なのです。

パルシステム東京の理念

「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」をつくります

❶ 食べものの安全性にこだわり、生活者のくらしと健康を守ります
❷ 日本の食料自給力を強めるため、生産者とともに産直運動を発展させます
❸ 安全・品質・価格・産直・環境面でもっと優れた「商品」をつくります
❹ 女性の社会参加を応援します
❺ 平和、地球環境、福祉、たすけあいの活動を広げ、地域社会に貢献していきます

パルシステムグループ

商品や環境政策などについて考え方を共有している 10（※）生協が、パルシステムグループを構成しています。
パルシステム東京はこのグループの中で、総事業高と組合員数ともに最大規模の生協です。

※利用事業会員を含めると 13 生協

パルシステム連合会
商品開発、仕入れ、商品管理、物流、情報システムを担当

pal*system
パルシステム生活協同組合連合会
パルシステムグループ　会員生協 約157万世帯

パルシステム東京	パルシステム山梨
パルシステム神奈川ゆめコープ	パルシステム群馬
パルシステム千葉	パルシステム福島
パルシステム埼玉	パルシステム静岡
パルシステム茨城 栃木	パルシステム新潟ときめき

それぞれの生協
商品やサービスの供給（個人宅配等）、福祉事業、組合員活動の支援ほかを担当

組織概要

名称	生活協同組合パルシステム東京	事業エリア	東京都全域（島嶼を除く）
設立	1970 年 4 月 1 日	本部所在地	東京都新宿区
役員	理事長 松野 玲子	配送センター	17 ヵ所
	専務理事 杉原 学	福祉事業所	13 ヵ所
	常務理事 佐藤 健二	保育園	2 ヵ所
	業務執行理事 戸井田 直人	職員数	1,853 人（定時職員含む）
	業務執行理事 杉村 剛是	組合員数	49 万 7,878 人
		総事業高	752 億 2,405 万円
		出資金	185 億 4,020 万円

※数値は 2019 年 3 月末時点

宅配

くらしに寄り添うパルシステム事業

食の安全・環境に配慮した商品をお届けし 多様なライフスタイルのニーズにも対応

商品を届けるだけではない配達担当をめざして

17カ所ある配送センターの職員（委託協力会社社員を含む）から33名の「商品担当」を選抜し、パルシステム主力部門である「農産」「畜産」「米穀」商品の利用促進・定着を目的として活動しました。2018年度は各産地から若手生産者を招き、ビジョンや取り組み等の学習に加え、活発な質疑応答・意見交換を行い、商品と一緒にお届けする担当者ニュースなどで組合員に伝えました。

時短ニーズに応える商品・サービス

「忙しくても手づくりしたい」「野菜をとりたい」の声に応えるインターネット限定商品「わが家の常備菜セット」を2018年5月にリリース。1週間分の副菜として、常備菜3品とミニおかず2、3品が作れる商品を、レシピとセットでお届け。仕事や育児などで「買い物や料理に時間がかけられない」といったくらしの課題を解決します。

配達担当 4つのこころえ

1. 私たち配達担当が窓口となります
2. 商品を大切にお届けします
3. 組合員のみなさんとの約束を守ります
4. 地域の配達担当として心配りを大事にします

電気

パルシステムでんきと発電産地

発電所数は46カ所に拡大！ 再生可能エネルギーの普及を推進します

高いFIT電気（再生可能エネルギー）比率を誇る「パルシステムでんき」

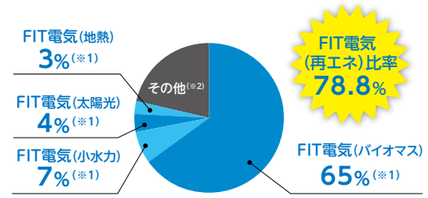
パルシステム東京は全国の生協に先駆けて2013年4月に子会社（株）うなかみの大地で新電力事業をスタート（※）。生物や森林、農地や水資源を損なうことの少ないFIT電気（再生可能エネルギー）を中心にお届けするために、産直産地や地域と連携して電力調達を拡大しています。

※2016年3月、パルシステムグループ子会社の（株）パルシステム電力へ移譲、同年10月から組合員への供給を開始。

発電産地を組合員があと押し

毎月の電気料金には「発電産地応援金」（税抜100円）が組み込まれ、再エネ発電所のさらなる普及促進などのために電気の生産者に届けられます。
パルシステムでんきの契約世帯数は7,854世帯（グループ全体では20,765世帯）となり、普段のくらしの中で発電産地をあと押ししています。

パルシステムでんきの電源構成
2018年度　実績



※1 この電気を調達する費用の一部は、パルシステム電力以外のお客さまも含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、CO_2が排出されないことを始めとする再生可能エネルギーとしての価値を訴求するにあたっては、国の制度上、非化石証書の使用が必要とされています。パルシステム電力が販売するFIT電気は、CO_2排出量について火力発電なども含めた全国平均の電気のCO_2排出量を持った電気として扱われます。
※2 この電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。

詳しくはホームページへ
http://www.pal.or.jp/denki/

再生可能エネルギーによる発電

小水力発電　9カ所

田んぼへ注がれる用水路の落差を利用してプロペラ水車で発電。野川土地改良区は年間を通じて農業用水を利用できるため、通年で発電可能。
野川土地改良区　野川小水力発電所（山形県長井市）

バイオマス発電　4カ所

年間5,000万羽の鶏の飼育で、毎日400t発生する鶏ふんを有効活用して発電。燃焼後の灰も肥料原料として循環させている。
十文字チキンカンパニー（岩手県九戸郡軽米町）

太陽光発電　32カ所

パルシステム千葉と連携し、ほ場の真ん中にソーラーシェアリングを設置。作物を育てながら発電する仕組みは、生協として全国で初めての取り組み。
佐原農産物供給センター（千葉県香取市）

地熱発電　1カ所

温泉の熱を使って水よりも沸点の低い媒体を気化させ、タービンを回して発電。震災と原発事故で甚大な被害を受けた土湯温泉の復興をめざし、地元団体が出資して誕生。
（株）元気アップつちゆ（福島県福島市）

※2019年3月現在

福祉

共生ケアにも取り組む福祉事業

誰もが安心して暮らせる社会をめざして
生協の視点を活かした福祉事業を展開

パルシステムならではの福祉のカタチ

パルシステム東京では、2012年6月に制定した「パルシステム東京福祉政策」にもとづき、誰もが安心して、その人らしいくらしを続けていくことができる地域づくりをめざして、福祉事業所「陽だまり」を都内13カ所で展開しています。厨房を併設しているデイサービスセンターではパルシステム食材を使った食事提供を広げるなど、生協らしさを活かしたサービスが喜ばれています。また、府中市・足立区の2カ所では今後の福祉のモデル事業となる「複合型福祉施設」として東京都認証保育所「ぱる★キッズ」を併設。子どもたちと高齢者が同じ場所でともに暮らす「共生ケア」の充実を図っています。

足立福祉棟を2018年4月にOPEN

足立センターの配送センター敷地内を活用して、「ぱる★キッズ足立」「デイサービスセンター足立陽だまり」「パルひろば足立」を併設する「足立福祉棟」を開設。「ぱる★キッズ足立」は2園目となる直営保育園で、東京都認証保育所としてスタートしました。

足立福祉棟の施設概要

ぱる★キッズ足立　1F

食育・木育・遊育を保育理念に取り入れ、たべる喜びや作る人への感謝の気持ち、木のふれあいから自然を大切にする心、遊びと人との関わりを通して豊かな感性と思いやりの心を育んでいます。

デイサービスセンター足立陽だまり　2F

ご利用者・ご家族の意向・要望を大切にした目標や支援方法に沿って、安全に楽しく過ごしていただくことで、ご自宅の次に安心できる場所となることをめざしています。

パルひろば足立（地域交流スペース）　3F

地域交流の拠点としてキッズスペースやキッチンを備え付け、多世代にわたる交流が自然と生まれる地域に開かれた場をめざします。

「ぱる★キッズ府中」保育理念の「木育」を広げる資格を取得

2014年の開園当初より保育理念として「食育・木育・遊育」を掲げ、自然とのつながりを感じられるような保育を実践してきました。
2018年度には常勤職員全員が木育インストラクターと保育ナチュラリスト、2つの資格を取得。自然への想いや個人の保育スキルが加わり、より子どもたちの関心に沿った活動へとつなげています。

東京おもちゃ美術館より「ウッドスタート宣言園」として認定証を授与された「ぱる★キッズ府中」

高齢者のくらしと安心を支える見守り活動

行政との見守り協定締結

毎週同じ曜日・時間帯に同じ配達担当が訪問する宅配事業の特徴を活かし、自治体が進める見守り活動に協力しています。 2019年3月末までに東京都および都内53の行政区と見守り協定を締結し、地域包括支援センターおよび行政の関係各課と連携して、早期の安否確認、対応などに貢献しています。

見守り活動の流れ

1. ポストに郵便物がたまるなど、組合員や地域住民の異変に気付く
2. 配送センターへ連絡
   ※緊急を要する場合は救急連絡などを行う
3. 自治体への連絡、自治体の関連機関が対応

見守り安心サービス

配達時に在宅状況や商品お届けの有無について、遠方にお住まいのご家族など事前に登録されたメール配信先へお知らせする「安心メールサービス」を無料で提供。
万が一、見守り対象の組合員が倒れてしまっているような緊急時には、救急車の手配、警察への通報を行います。緊急時や異変を察知した際には、登録された方にも電話連絡をします。

食

食べることは、生きること。
本物の味わいと安心を届けたい。

❶ 安全な「食」を求めて

安全・安心な農産物の生産に、農薬・化学肥料の使用削減と放射能対策は欠かせません。
パルシステムではそれぞれ独自の基準を設定し、見直しを続けてきました。
生産者とともに、より安全でおいしい産直農産物の生産に努めています。

農薬削減の取り組み

コア・フード、エコ・チャレンジ

パルシステムでは農薬と化学肥料の使用について独自の基準を定めています。エコ・チャレンジ基準の見直し論議では組合員を交えて農薬の総量削減を確認しました。

コア・フード

有機JAS認証を取得した「有機農産物」、またはそれに準ずると判断された農産物。化学合成農薬、化学肥料を使わない（※）、パルシステムのトップブランド
※有機JAS認証での使用可能資材を除く

エコ・チャレンジ

化学合成農薬、化学肥料を各都道府県で定められた慣行栽培基準の1/2以下に削減。加えて、パルシステムの「削減目標農薬」の不使用を原則とします。青果は、除草剤、土壌くん蒸剤も不使用

パルシステムの商品づくり

食品添加物削減

パルシステムでは食品添加物の使用について国の基準よりも厳しい独自基準を設けています。
また、独自基準で使用を認める物質でも、できるだけ使用しない、使用を減らすなど厳しく運用。安易に食品添加物に頼らず、素材を吟味し、できるだけ素材の良さを活かした製造法を取っています。

Product

使えるカレー

組合員の声に応えて「たんぱく加水分解物」「香料」「カラメル色素」不使用でリニューアルしたＰＢ（プライベートブランド）商品のカレー粉

食の安全を求める他団体との連携

パルシステムでは遺伝子組み換え作物および食品に反対する立場から、遺伝子組み換え表示とゲノム編集等の新技術について他団体とともに取り組み、消費者の視点に立った見直しを求める意見書の提出や院内集会へ参加。環境省などと意見交換をすすめました。また、ゲノム編集学習会を開催し、組合員のほか、グループ他生協からも参加がありました。

組合員による開発協力商品

メーカー、パルシステム、組合員が月１回集まり協力して議論を重ね、組合員の“ほしい”を組合員がプロデュースする商品開発チーム。
2018 年度は「カリコロおからリング」を開発しました。原材料はすべて非遺伝子組み換えにこだわり、仕上げの味つけに PB「海はいのち」を使用した子どもに安心して与えられるおいしいお菓子ができました。

2018年度商品開発チーム「キラ☆きらず8(エイト)」の皆さん

組合員が開発協力しました

2019年6月から新発売

Promise

パルシステムの商品づくり 7 つの約束

❶ 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
❷ 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
❸ 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
❹ 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
❺ 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
❻ 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
❼ 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

❷ 商品の価値を伝える

パルシステムは、商品を選ぶことで社会を変える取り組みを実践しています。
商品の価値を広めるため、生産者やメーカーを招く学習会や産地見学なども開催し、
組合員と作り手をつないでいます。

パルシステム東京が考える食育

「ともにつくり、ともに食べる ～一人ひとりがつながり、いのちをはぐくみ、生きる力を高めます～」を目標として食育政策を定めています。
食育の取り組みをすべての組合員、そして地域へ、子どもから高齢者まで広げ、いのちの源である食を大切にすることや、自ら生きる力を高めることをめざしています。

食育リーダー、PLA の食育講座

パルシステム東京の食育を広げるため、養成講座を修了した組合員講師「食育リーダー」「PLA（パルシステム・ライフ・アシスタント）」がさまざまな食育出前講座を開催しています。

食育リーダーによる食育講座「みんなで楽しくお弁当づくり」(5/10)

PLAによる学習会「子どもが喜ぶ！パルシステムの愛情おやつ」(1/24)

「ほんもの実感！」商品の普及活動

「ほんもの実感！」くらしづくりアクション

「消費者一人ひとりの“選択”が、社会や環境を変える力になる」という呼びかけのもと、パルシステムの「商品づくりの基本」に沿って作られた商品（＝ほんもの）の利用を広げる運動を展開しています。
今年度もパルシステムを体現している PB 商品や、産直原料使用商品、組合員開発商品を中心とした学習会を重ね、商品のよさを職員と組合員がともに、広く伝える取り組みを行いました。
この活動により 2017 年には、SDGs 推進における「顕著な功績が認められる団体」として「ジャパン SDGs アワード」の SDGs 推進副本部長（内閣官房長官）賞を受賞しました。

JAPAN'S SDGS AWARD 2017

第1回「ジャパン SDGsアワード」受賞

“選ぶで変わる”
ほんもの実感
くらしづくりアクション

Action1
「ほんもの」の価値を知り、一人ひとりが選択しよう!

Action2
「ほんもの」をつくる生産者・メーカーと会おう、話そう、伝えよう!

Action3
「ほんもの」をおいしくムダなく使いこなそう!

委員会企画を通じた普及活動

委員会活動は身近な地域やテーマごとに、組合員同士が学び合いながら地域にパルシステムを広げ仲間を増やす活動です。「ほんもの実感！」商品の普及活動にも多くの委員会が参加し、生産者やメーカーから直接学ぶ機会を創出しました。

❸ 食料自給率の向上をめざして

世界最大の農産物純輸入国といわれる日本。食料自給率は先進国の中で最低水準です。
パルシステム東京はＴＰＰに反対し、
国産の食べものを大切にする取り組みを続けています。

米づくりの体験実習「お米の出前授業」

2018 年度も教育機関からの要請に応え、お米の出前授業を行いました。バケツ稲などで日本人の主食であるお米の大切さを学ぶ出前授業を 2010 年度から継続実施しています。授業では、お米ができるまでを暦や代表的な産地の紹介とともに学習。今と昔、それぞれの生産者の知恵や工夫を学びます。

Data

2018 年度 出前授業を受講した児童数

142校（のべ318回）……10,082人（都内小学5年生の約1割）

脱穀・籾すり実習

苗植え実習

産地交流

パルシステムでは「産直四原則」にもとづき、生産者と組合員の相互交流を積極的に行っています。産直産地では、農作業体験や施設見学などを通じ産地に対する理解を深めています。
また、産地生産者を招いた料理教室や学習会、毎年３月には全国各地の生産者を招いた交流会を開催し、「顔の見える関係」を作り出しています。

Principle

産直四原則

1. 生産者・産地が明らかであること
2. 生産方法や出荷基準が明らかで生産の履歴がわかること
3. 環境保全型・資源循環型農業をめざしていること
4. 生産者と組合員相互の交流ができること

公開確認会

「公開確認会」は、産直産地の農畜水産物の栽培・生産方法や安全性への取り組みを、組合員が直接確認するパルシステム独自の取り組みです。1999 年にスタートし、開催数は 2018 年度末までに累計 135 回に上ります。2018 年度はパルシステム東京主催で「JA 山形おきたまパルシステム米生産部会公開確認会」を開催しました。

減農薬栽培の取り組みなどを帳票や視察で確認(7/19、20)

環境

未来の社会のために、今の暮らしの中で、できることを。

❶ 地球温暖化を防ぐために

世界各地で地球温暖化が原因と見られる異常気象が頻発しています。
パルシステム東京は「地球温暖化対策の推進に関する法律」などに沿って、
再生可能エネルギーへの切り替えや省エネ設備の導入などの具体的な CO_2 削減をすすめます。

C O_2排出量の削減

2018 年度は CO_2 排出量を 3,900 t 以内の前年度比 100％に抑える目標を立てました。結果は 3,489t の排出量となり目標より下回りました。電気の使用量は増加しましたが、㈱パルシステム電力の基礎排出係数（発電時における CO_2 排出量を算定するための係数）が下がったことが大きく影響しています。

2018 年度は猛暑の影響もあり各事業所の電気使用量が微増傾向でした。昭島センターの新築工事や足立、昭島センターにおける冷凍蓄冷剤凍結庫の稼働、また、府中センターのエアコン熱源を電気ヒートポンプに切替えたことにより電気使用量が増加しました。一方で、電気の排出係数として用いる㈱パルシステム電力の CO_2 基礎排出係数も前年度より低くなり、CO_2 排出量は大幅に減少しました。また、CO_2 排出量の 3 / 4 を占める車両燃料の使用量とガス使用量とそれぞれの CO_2 排出量も減少しました。将来的には「パルシステムでんき」を使用した EV 車両（電気自動車）トラックの導入をめざします。

ドライアイス不足のリスク低減

冷凍品の品温管理に欠かせないドライアイスは、宅配サービスの普及で需要が高まる一方で、ガソリン精製過程で発生する原料（高純度の CO_2）はエコカーの浸透などによって減少傾向にあります。
夏場はとくに冬場と比べ３～４倍の使用量となり、ドライアイスの確保がひっ迫しています。
対策として 2017 年度の青梅センターに続いて、2018 年度は足立・昭島センターにて、ドライアイスの代替え用として冷凍蓄冷剤凍結庫を設置しました（計 63 台）。電気使用量は増加しましたが、ドライアイス使用量の削減や CO_2 削減に貢献しました。

Eco

フィルター清掃後、
専用冷凍庫で24時間
凍結させて使用

CO_2

省エネ対策

継続的に全事業所を対象とした EMS（環境マネジメントシステム）活動を実施しています。具体的には、全事業所での残業の抑制やこまめな消灯など、節電行動を徹底するほか、事業所と本部のエネルギー使用量を管理し、CO_2 削減に貢献しています。
ハード面の対策として、計画的なＬＥＤ照明への入れ替えを進めています。また、2018 年秋に開設した昭島センターでは、冷凍冷蔵設備（凍結庫を除く）でフロンガスではない自然冷媒、Ｒ 744（CO_2 冷媒）を導入しました。

Save

こまめな ON/OFF が可能となる
キャノピースイッチ付きの LED 照明

フロンガスを
使用しない
二酸化炭素による
冷却設備

❷ 一人ひとりのくらし方を見直す

毎日なにげなく使う洗剤や、家庭から出されるゴミ…
一人ひとりのくらし方次第で、環境問題の多くを改善できる可能性があります。
パルシステム東京ではさまざまな機会を通して、くらしを見直す提案をしています。

3Rの取り組み

パルシステム東京は容器の軽量化や簡易包装、リユース・リサイクルできる容器への変更など、組合員や取引先の理解と協力を得ながら 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを長年継続しています。また、マイクロプラスチック採取体験やリサイクル施設見学会の開催など、組合員向けの普及啓発活動にも積極的に取り組んでいます。
パルシステムグループ全体では、商品供給事業による容器包装プラスチックの排出総量を定量化して削減を目指す「プラスチック排出総量削減」の取り組みを 2017 年度より実施しています。取引先メーカーと協力した容器包装の改良（薄肉化やサイズダウン、再生プラスチックや代替素材などの活用）や、組合員の協力によるプラスチック容器包装の回収・リサイクルを進めています。

Activity

web動画
「パルシステムの3R活動」

石けんの利用普及と有害化学物質の削減

農薬や殺虫剤、合成界面活性剤など、身の回りにあふれる化学物質の中には、環境や人に悪影響を与えるものも多く含まれています。
家庭から排出される化学物質の約 6 割は、台所・洗濯用洗剤に含まれていることから、パルシステムグループは環境負荷の少ない石けんへの切り替えを組合員に提案しています。

石けんの利用普及

重曹、酸素系漂白剤、クエン酸などの石けん関連商品を、汚れ落としや掃除に活用する、自然派おそうじの学習会を継続的に開催。合成洗剤の問題点にも触れながら石けんの良さを広めています。組合員が開発に協力した石けん商品のラインアップも好評です。

Product

やっぱり石けん！洗濯用粉石けん
組合員が開発協力してリニューアル。粒状で溶けやすくなって利便性が向上

くらしの中の省エネ

家庭の省エネ診断

東京都認定「家庭の省エネアドバイザー」の資格を持つ組合員アドバイザーを養成し、希望する組合員宅への訪問診断を通じて、各家庭に合った省エネアドバイスを行いました。
「省エネ診断キット」を使って、一緒に検針票を見ながらエネルギー使用状況をチェックするほか、小型電力測定器や LED 電球の貸し出しもしています。2018 年度は 15 世帯の診断を行いました。

親子向けのソーラーカー工作教室&地球温暖化講座も開催(7/21)

❸ 身近な自然を守る

人々のくらしは多様な生き物が関わり合う、生態系からの恵みに支えられています。
生物多様性保全と、地球温暖化防止や有害化学物質の削減などの環境活動は、
深くつながっているという視点で、他団体とも連携した取り組みや学習の場を広げています。

生物多様性保全の取り組み

生き物モニタリング調査

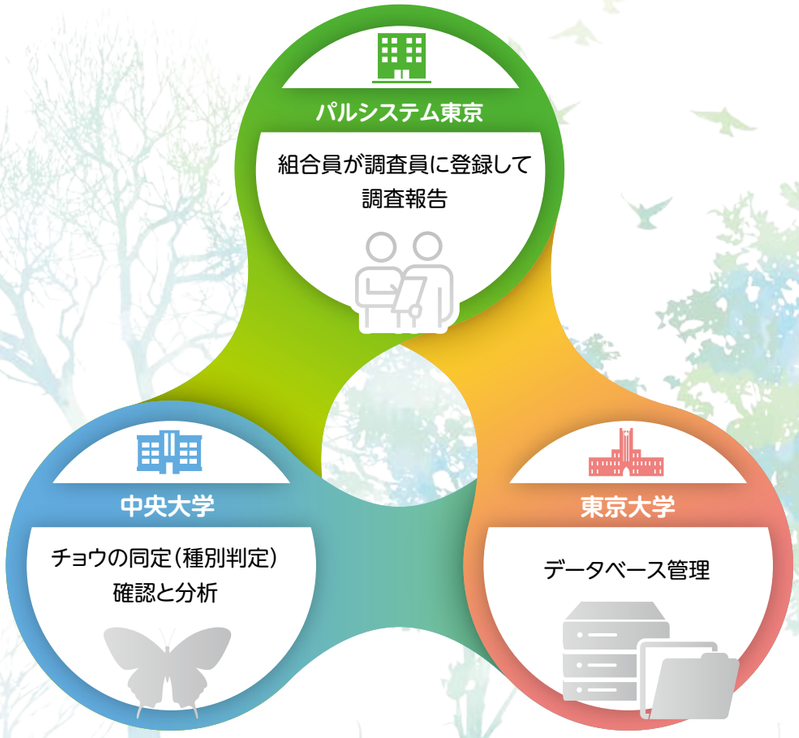
都市部での生態系異変や気候変動に目を向ける機会を作り、生物多様性や人のくらしとのつながりを意識することで持続可能な社会をめざすことを目的としています。
「中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト」では毎年調査員を募集し、2009 年度から 2018 年度までの 10 年間で、のべ 1,043 人が調査員となり、報告されたデータ数は 41,445 件となりました。

※大学側の体制変更に伴い2019年度から活動を縮小し、2021年3月に終了することが決定

在来種保護と外来種駆除

地域の生態系や日本特有の種を守るため、「侵略的外来種」駆除団体などと連携して駆除活動に協力しています。

「かいぼり」後の井の頭池にてその後の水辺の生きものたちを観察(3/2)



人

組合員一人ひとりの思いが
地域の笑顔につながる。

❶ 地域とつながる

地域のつながりが薄れる中で、組合員活動の広がりは貴重な存在です。
人と人とがつながり、ネットワークが生まれ、地域の活性化につながることを期待し、
パルシステム東京は組合員の活動をさまざまな方法で支援しています。
また、継続的な市民団体とのつながりから、新しい可能性が生まれています。

地域で広がる活動

パルシステム東京の組合員活動は身近な地域やテーマごとに組合員同士が学び合う委員会活動を中心に、さまざまな活動をしています。
食の安全や環境、平和や福祉をテーマにしたものから、くらしを豊かにする文化的活動まで、多くの組合員が参加しています。

Data

パルシステム東京の委員会活動
（2019年3月末時点）

委員会数	175委員会
企画数	884件
参加人数	のべ13,341人

市民活動助成基金

組合員が商品やサービスを利用することで生まれた剰余金をもとに、誰もが安心して暮らしていける社会づくりをめざして活動している、草の根の市民団体を資金面で支援しています。また、団体間連携など助成終了後の連携づくりも進めました。助成を通して、団体が取り組んでいる顕在化していない社会課題について組合員や社会の認知を広げることにもつながっています。

Data

市民活動助成基金　実績

2018年度	12団体 約463万円
1998～2018年度（累計）	のべ245団体 約9,630万円

2018年度
市民活動助成基金助成団体の紹介（一部）

一般社団法人 Spring

日本初の性被害当事者等による団体。「#OneVoiceキャンペーン」と題して、性被害当事者が生きやすい社会の実現に向けて、一人ひとりの声を集めるキャンペーンを実施している。

石神井・冒険遊びの会

子どもたちがのびのびと自由に遊んでほしいとの願いから、都立石神井公園で「プレーパーク」と呼ばれる外遊びの活動を毎月開催。子育ての悩みを抱える親たちの相談の場づくりや学習会などを行なっている。

たすけあい活動助成金

パルシステム共済生活協同組合連合会では、保障事業で生まれた剰余の一部を、よりよい地域社会の構築に向けて、組合員が自主的に行う子育て支援や福祉助け合い活動、ライフプランニング活動、健康維持活動などへの助成金として活用しています。
パルシステム東京では、2018年度も地域の担い手づくりや居場所づくり、ピンクリボン運動、子どもの甲状腺検診などで助成金を活用した取り組みを行いました。

地域福祉推進の取り組み

団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる、いわゆる「2025年問題」が迫っています。
パルシステム東京は、小さな子どもから高齢者まで誰もが安心して、自分らしいくらしを続けていくことができるように、地域ごとの福祉課題に取り組む「地域福祉」を推進しています。

認知症への理解と啓発の推進

地域で高齢者を支える担い手を育成し、地域での見守りの輪を広げるため、認知症サポーター養成講座を組合員や地域住民、職員向けに実施しています。2018年度は88人のサポーターを養成しました。

今年度も多くの職員が講座に参加。高齢社会における関心の高さが感じられた

認知症を支援する目印、オレンジリング

パルシステム東京の施設活用

パルシステム東京の施設（会議室、調理室、いなぎめぐみの里山）の活用が広がり、行政と連携した高齢者の地域デイサービス、子ども食堂・学習支援、障がいのある子どもを持つ家族のレスパイトケアなど地域の活動を応援する継続した取り組みが増え、いなぎめぐみの里山では、地域の保育園との連携や生活困窮者の自立支援の取り組みの場、委員会交流企画などで活用しました。

地域福祉を学ぶ

地域の人々の助け合いや支えあいが社会に浸透していくために、地域福祉を学ぶ機会をつくっています。
「観て、語って、つながろう」をコンセプトに、参加者との対話を通じた「ムビラボ 映画上映＆トーク」を11月に開催しました。平日の夜間上映や、赤ちゃん同伴で鑑賞できるフレンドリー上映をしたほか、2つの作品では映像から発せられるメッセージを他人事ではなく、自分事として捉えることができるようにトークセッションを行いました。パルシステム東京の活動に初めて参加する人たちも多く見られ、「障がい、貧困・格差」問題等について理解が深まりました。

❷ 平和なくらしを守るために

平和で公正な社会の実現に向けて、2014 年に「パルシステム東京 平和政策」を策定しました。「平和な共生の世界をめざします」「一人ひとりが尊重され、いのちを大切にする社会づくりをすすめます」「次世代が希望をもてる地域をつくります」を基本に、平和活動を続けています。

国際連帯

平和カンパ、書き損じハガキ等の回収キャンペーン

紛争や難病、飢餓などの厳しい状況にある世界の子どもたちへの支援として、「平和カンパ」「書き損じハガキ等の回収キャンペーン」に取り組んでいます。

平和カンパ　実績

2018年度	7団体 約724万円
1996～2018年度（累計）	約1億5,751万円

回収キャンペーン　実績（換金額）

2018年度	2団体 約1,603万円

児童労働反対運動

「ストップ！児童労働キャンペーン 2018」（児童労働ネットワーク）に賛同し、組合員へ参加を呼びかけました。写真を投稿して児童労働反対を訴える「レッドカードアクション」で、理事会有志、城南しおみエリア協議会メンバーが投稿した写真は、同キャンペーンの「レッドカードアクション＋１アクションフォトコンテスト」で「審査員特別賞」を受賞しました。

平和について学ぶ活動

平和スタディツアー

被爆や戦争体験の継承を目的とし、ヒロシマ・ナガサキ平和スタディツアー、沖縄戦跡・基地めぐり（日本生協連・各県生協連企画）に参加しました。
ヒロシマ・ナガサキでは被爆者の証言、原爆遺構めぐりなどを通じて原爆被害の実相や、核兵器の非人道性などについて、沖縄では講演会やフィールドワークを通じて沖縄戦の歴史と米軍基地問題について学びました。

平和学習会

2018 年度の平和学習会は「基本的人権や民主主義について学び、憲法への関心と理解を広げること」を目的に、憲法をテーマとする学習会を開催しました。
弁護士の太田啓子さんは、初めて憲法に触れる組合員や親子を対象にした「憲法カフェ」で、憲法学者の木村草太さんは、憲法改正の行方を学ぶ学習会でお話しいただき、多くの組合員に参加が広がりました。

ピースフェス

2018 年度のピースフェスは、軍隊を廃止し、軍事予算を社会福祉にあてる道を選んだコスタリカのドキュメンタリー映画「コスタリカの奇跡～積極的平和国家のつくり方～」の上映の他、様々なプログラムで世界の国々の文化を感じ、平和を想う一日となりました。

国際協力NGOによる物品販売「ワールドバザール」

組合員による「平和スタディツアー報告」

組合員による平和活動

委員会による平和企画も多数開催されました。
国際協力ＮＧＯが講師となり、紛争や飢餓、難民問題などを抱える国の現状を学び、国際協力への理解を深める「ピースカフェ」をはじめ、弁護士による出前講座「憲法カフェ」や、専門家ガイドと一緒に地域の戦跡をめぐる「身近な戦跡フィールドワーク」などを通して、地域に平和活動が広がりました。

❸ 被災地の復興を支援する

パルシステム東京は「3.11 を忘れない」を基本視点に、福島支援カンパや親子保養企画、子どもの甲状腺検診などに取り組むほか、被災地の現状を学ぶスタディツアー、シンポジウムなどを継続的に実施しています。また、日本や世界各地で発生する災害による被災者への支援カンパも随時行っています。

被災地のいまを知る

みんなで応援！復興トーク&カフェ～3.11 を忘れない

「3.11 を忘れない」をキーワードに、被災地への想いを共有する企画を毎年開催しています。これまではシンポジウム形式で実施してきましたが、より多くの方に参加の輪を広げるため、今年はトークとカフェ形式に。疋田（ひきた）香澄さん（保養支援団体リフレッシュサポート代表）による「女性が自分らしく生きることが福島支援につながる」と題したトークや、福島県楢葉町（ならはまち）「わらじ組」によるわらじづくりのワークショップ、食育リーダーによる美味しい非常食の試食など、盛りだくさんの内容を通して、被災地に想いを寄せる一日となりました。

講師の疋田香澄さん

福島のお母さんたちに教わりながらのわらじづくり

被災地を支援する

福島の親子への支援「春休み！東京でリフレッシュ！パルシステム福島親子交流企画」

福島の親子の保養を目的とした企画は今年で７回目。放射線への不安で今も自然の中で遊ぶことが難しい親子もいるため、「いなぎめぐみの里山」で自然体験を実施。パルシステム東京の組合員ボランティアがつくった芋煮うどんの昼食や、焼き芋・ピザつくり体験、落ち葉遊びなどを通して、思いきり自然を満喫しました。

震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」

組合員による東日本大震災の復興支援活動を資金面で支援する制度です。

パルシステム東京組合員が代表の３人以上のグループに、年度最大 50 万円を助成します。

パル未来花基金　実績

2018年度	17団体 395万円
2014～2018年度（累計）	のべ74団体 約1,823万円

支援カンパ

2012 年度から、福島の子どもたちを放射能から守る市民団体を支援する「福島支援カンパ」を実施しています。また、各地で起きる大規模災害などによる被災者に対し、迅速に情報を入手し、必要な組織支援を進めています。2018 年度は西日本で発生した豪雨被害を受けて、緊急支援カンパに取り組みました。

西日本豪雨緊急支援募金　実績

パルシステム東京	約 4,690万円
パルシステム（全体）	約1億 3,897万円

福島支援カンパ　実績

2018年度	7団体 約 877万円
2012～2018年度（累計）	約 6,445万円

子どもの甲状腺検診

福島支援カンパ贈呈先団体「いわき放射能市民測定室たらちね」の協力を得て、組合員と福島からの避難者の子どもを対象にした「子どもの甲状腺検診」を 11 ～ 12 月に都内３会場で実施し、139 人が受診しました。
また、事前のキックオフ学習会では、放射能の影響や甲状腺検診への理解を深めました。

甲状腺検診の様子

働く環境づくり・人材育成

働きやすい職場づくり

有給休暇取得促進に向けて、日単位 / 半日単位による取得のほかに時間単位での取得もできる時間有給休暇制度の運用を 2018 年 10 月から開始しました。3 月末までにのべ 1,919 人が取得し、有効活用されています。また、子育て中や介護など多様な人材が長く働き続けることができる仕組みとして、テレワークの実験展開も重ねています。

「くるみん」を取得・更新

「一般事業主行動計画」を策定し、少子化対策を図り子育て支援など一定の基準を満たした企業や法人などが厚生労働省によって認定される「くるみん」マークを取得しています。

「一般事業主行動計画」、「女性活躍推進法に関する一般事業主行動計画」はパルシステム東京のホームページで公表

職場復帰前の懇談会の様子

教育・研修プログラム

パルシステム東京の理念・ビジョンの浸透を図り、日常の業務に活かすためにさまざまなプログラムを行っています。

産地研修・パルカレッジ

2018 年度もパルシステム東京独自の産地研修・援農に役職員および委託協力会社社員が参加し、青森、秋田、新潟、千葉、茨城、埼玉、福島の 7 県 8 産地で研修を実施。のべ 233 人が参加しました。
また、職員の階層ごとに習得すべき知識だけでなく、生協の基礎から経営管理、商品知識を学ぶパルカレッジを多彩な内容で展開しています。パルシステム東京からは、220 人が受講しました。

秋田南部圏での除草作業の様子

障がい者雇用

障がいのある職員が、配送センター、陽だまり、本部内でさまざまな業務を行っています。入協前に、職場体験実習や就職を見据えた実習などを行い、仕事のイメージや職場環境を体験した上で採用。2018 年度も本人を交えて、ご家族や関係者同士の交流会を行いました。2018 年度の障がい者雇用実績は 426 人（年間のべ人数）、2018 年度の法定雇用率 2.2％をクリアしています。（2018 年度実績 3.3％）

障がい者雇用実績（年間のべ人数）

年度	2016	2017	2018
人数	395	416	426

労働安全衛生の取り組み

安全で働きやすい職場環境を作るため、各事業所で月 1 回の「安全衛生委員会」を開催。リスクアセスメントや 4S（整理・整頓・清掃・清潔）、産業医による職場巡回などの実施により、健康管理および労働災害防止のための改善に努めています。

メンタルヘルスに関する取り組み

職員のメンタルヘルスや健康についてのさまざまな相談に、産業カウンセラーと看護師資格を有する産業保健スタッフが対応。専門性を活かし、職員の心と体の健康管理を支えています。

リスクマネジメント

内部統制システムの推進

組合員と社会に信頼される健全な組織体制を整備するために、「内部統制システム基本方針（組織体制の整備と運用を効率的に行うために必要な基本方針）」（2009 年 12 月制定、2015 年 3 月改定）に基づき取り組んでいます。

内部統制システム基本方針の検討

毎年定期的に ①機関設計の見直し ②法改正 ③生協業界の動向 ④業務内容の大幅な変更 ⑤その他事項の項目にそって検討を行っています。

リスクマネジメントシステムの推進

組織の事業活動の中で想定されるリスクを洗い出し、そのリスクに対するマニュアルや規程類の確認を行いました。その上で組織全体で重要度の高いリスクに対しての対策や計画を策定しています。

財務報告の信頼性確保

財務報告の信頼性確保はもとより、業務の効率化および「仕事の見える化」を推進するため、決算における業務処理、作業もれを点検するチェックリストの運用を行っています。

内部監査の専門性・信頼性

日本内部監査協会の認定資格である内部監査士の資格を取得した職員が、内部監査の専門性・信頼性の確保のために研修受講などにより、監査能力の向上に努めています。

子会社における内部統制

子会社における財務報告の信頼性確保だけではなく内部管理体制のさらなる強化をめざし、子会社と一体の内部統制を推進しています。

コンプライアンスの推進

法令・内部規則だけでなく、倫理面でも組合員・社会の期待に応えられる行動や判断を行うための指針として行動規範を定めています。

行動規範カード

「パルシステム東京行動規範」の本文を掲載した「行動規範カード」を役職員は常に携帯します。カードには「行動規範」のほか、「コンプライアンス相談窓口連絡先」「こころとからだの健康相談窓口」「交通事故発生時の対応」「災害発生時の安否連絡手段」などを掲載しています。

相談窓口（ヘルプライン）

職員からの相談案件に対応するほか、違反行為の防止や、迅速な是正を目的に設置しました。

コンプライアンス委員会

専務理事のもとに設置され、常勤理事および執行役員並びに 2 人の外部有識者で構成。特に外部有識委員（弁護士、コンプライアンス専門家）の意見・具申は、効果的な牽制機能となっています。

地図で見る パルシステム東京

2018年度のトピックスと合わせてご紹介します。

ぱる★キッズ府中

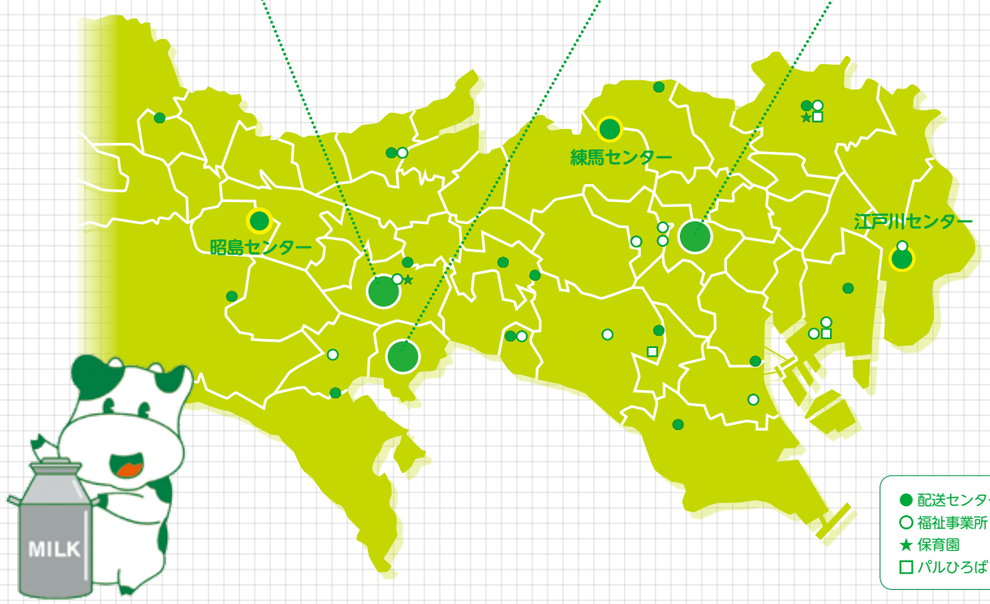
産地・メーカーの協力で「梅干し・梅シロップ作り」「ソーセージ作り体験」「すいか割り」を行ったほか、保育園の菜園で収穫した野菜を給食のメニューに取り入れ「食育」活動をすすめている。

いなぎめぐみの里山

「農と緑の創生」をキーワードに2004年に開設し、年間約3,000人の組合員が農業体験を中心に里山体験や地域と連携した企画に参加。2018年3月には、所有する土地のうち約2.1haの山林が稲城市の「自然環境保全地域」に指定された。

見守り協定

東京都および都内53の行政区と見守り協定を締結



Topics ● パルシステムでんき発電産地研修

パルシステム東京では毎年、配達担当職員らが福島に足運び、パルシステムでんきの発電産地への視察研修を続けている。福島県で見たこと知ったことをもとに、組合員に電気の切り替えを勧める意味を模索する。

対象者	配達担当職員317人
視察産地	飯舘電力（福島県飯舘村）
	富岡復興ソーラー（富岡町）
	元気アップつちゆ（福島市）
2018年度実績	視察回数2回（のべ33人参加）
2019年度計画	視察回数8回（317人参加予定）

全国の産直産地は365カ所

青果	278	卵	18
米	34	水産	11
畜産	18	森林	2
牛乳	4		

2018年受賞産地

- **えりも漁業協同組合女性部**
「第23回全国青年・女性漁業者交流大会 流通・消費拡大部門」農林中央金庫理事長賞
- **恩納村漁業協同組合青年部**
「第23回全国青年・女性漁業者交流大会 流通・消費拡大部門」水産庁長官賞

スイカの収穫作業

スイカの集荷作業

援農受け入れの感謝を込めて産地の方へお手紙

配送センターでの取り組み

昭島センター

立川センターより移転し、2018年10月より稼働。女性職員が働きやすい職場をめざし、女性更衣室にシャワールームと洗面化粧台を設置。休憩室のテーブルとイスには多摩（檜原村）産材を使用し、天然木の温もりと香りでリフレッシュできる環境に。

練馬センター

地域の居場所づくりとしてセンターの会議室を活用した通所型サービス、練馬「パルの家」がオープン。組合員公募により7人が担い手として体操の先生になり、自分にできることを活かし、積極的にチャレンジしている。

江戸川センター

カタログでおなじみの商品を生産者が直接アピールできる場として各センターで開催されるセンターまつり。江戸川センターでは1日で500人を超える組合員と地域の方が来場した。

Topics ○ 職員による援農

業務としてではなく、「産地が多忙な時期に農作業のお手伝いをして貢献する」という位置づけで行う援農企画。2018年度は61人の職員が参加し、草取りや収穫などの作業に汗を流した。

日程	産地	作業内容	人数
4/14～4/15	新潟県阿賀野市（ささかみ）①	稲の播種	13
5/12～5/13	新潟県阿賀野市（ささかみ）②	田植え	16
7/7～7/8	青森県藤崎町	にんにく収穫、圃場の草取り	10
7/28～7/29	秋田県南部圏	枝豆収穫、すいか収穫・集荷、りんごの圃場整備	15
9/29～9/30	新潟県阿賀野市（ささかみ）③	稲刈り	7

数字で見る パルシステム東京

パルシステム東京 組合員数

約 500,000人

組合員組織率 6.9%

※東京都世帯数に対して

パルシステムのオリジナル商品数 830品目

認知症サポーター養成講座受講者 →P16 88人

食の安全や再生可能エネルギー推進に関して行政等に提出した意見書 11件

市民活動助成基金 →P16

1998-2018 245団体

総計約 9,630万円

組合員参加の産地交流 10産地 29企画

出前授業開催数 318回 142校

お米の出前授業受講者数 →P10

総計約 23,000人

包材軽量化などの改善による →P13

プラスチックごみ減量 25.6t

(2017～2018年度の改善商品計・グループ全体実績)

ヒバクシャ国際署名 総計 45,198筆

2018年度組合員意見集約

7,353件

職員平均年齢 46.1歳

育児休職制度活用者数 10人

育児時短制度活用者数 10人

職員人数 1,853人

職員男女比率

女性 54.2%　男性 45.8%

石けん商品供給点数 →P13

約 932,000点

3日分の時短ごはんセット受注点数 約 3,500セット

常備菜セット受注点数 約 1,900セット

※数値は記載のない限り2019年3月時点。

写真で見る パルシステム東京

記念品を授与しました！

1/28 パルシステム東京
組合員50万人到達

土の感触がきもちいい！

10/13 親子にやさしい産地体験

みらいをつくるアイディアで「エシカルツリー」が満開に

2/23 春のエシカルランチ
～地球の未来を食べて考えよう～

紙芝居やパペットで楽しく学ぼう！

8/23 憲法ってなあに?
～親子で「憲法カフェ」～

お母さん喜ぶかな♪

12/1 はちせんカフェ
「お父さんといっしょにおにぎりサンド作り」
in 八王子センター

お米の大切さをみんなと実感！

お米の出前授業の一コマ

こんにちは！今日も暑いですね！

映画とパンとコーヒー

11/9～10 観て、語って、つながろう
Movie-Labo（ムビラボ）

ドキドキワクワク！

8/6 パルシステム商品検査センター見学＆
親子科学実験教室

旬のおいしさを引き出します！

2/11 レストランシェフが教える
「家庭でオシャレに産直ごはん」

7/21 自由研究はこれでok
ソーラーカー工作教室&地球温暖化講座
in 三鷹センター

生産者の皆さんといっぱい交流

新潟県阿賀野市での産地研修の一コマ

お父さんカッコいい！

7/1 竹の伐採と七夕笹飾りづくり
in いなぎめぐみの里山

竹で道づくりもできるんだって！

安全安心をお届けします！

おはようございます！

生活協同組合

パルシステム東京 http://www.palsystem-tokyo.coop/

本部事務所 ―― 〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
TEL 03-6233-7600(代) FAX 03-3232-2581
Eメール palsystem-tokyo@pal.or.jp

配送センター

江戸川センター	〒132-0025	江戸川区松江2-10-18
江東センター	〒136-0076	江東区南砂2-36-1
足立センター	〒121-0011	足立区中央本町4-3-7
港センター	〒108-0075	港区港南5-5-12
大田センター	〒146-0081	大田区仲池上1-31-1
板橋センター	〒174-0041	板橋区舟渡3-20-28
池尻センター	〒154-0001	世田谷区池尻2-23-4
練馬センター	〒179-0073	練馬区田柄4-38-5
世田谷センター	〒157-0061	世田谷区北烏山7-21-11
狛江センター	〒201-0003	狛江市和泉本町4-5-24
三鷹センター	〒181-0013	三鷹市下連雀6-15-18
府中センター	〒183-0052	府中市新町2-29-4
東村山センター	〒189-0011	東村山市恩多町1-10-1
多摩センター	〒206-0032	多摩市南野1-2-5
昭島センター(旧立川センター)	〒196-0021	昭島市武蔵野2-23-2
八王子センター	〒192-0033	八王子市高倉町4-7
青梅センター	〒198-0024	青梅市新町3-11-1

福祉事業所

●●	江戸川陽だまり	〒132-0025	江戸川区松江2-10-18
●	辰巳陽だまり	〒135-0053	江東区辰巳1-2-9-101
●●	辰巳陽だまり	〒135-0053	江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル3F
●	東雲陽だまり	〒135-0062	江東区東雲2-4-3-106
●	足立陽だまり	〒121-0011	足立区中央本町4-3-23 2F
●●	八潮陽だまり	〒140-0003	品川区八潮5-2-2 八潮ビル2・3F
●●●	中野陽だまり	〒164-0003	中野区東中野4-7-9
●●●	第2中野陽だまり	〒164-0003	中野区東中野1-4-10
●	中野中央陽だまり	〒164-0011	中野区中央5-41-18 東京都生協連会館5F
●●	上町陽だまり	〒154-0017	世田谷区世田谷2-8-2 パルテノン上町1F
●●	狛江陽だまり	〒201-0003	狛江市和泉本町4-5-24
●●	府中陽だまり	〒183-0054	府中市幸町2-13-29
●●	府中陽だまり	〒183-0054	府中市幸町2-13-30
●●	東村山陽だまり	〒189-0011	東村山市恩多町1-10-1
●	愛宕陽だまり	〒206-0041	多摩市愛宕3-2 愛宕かえで館1F

●デイサービスセンター
●ホームヘルプサービス
●ケアマネジメントサービス
●認知症対応型デイサービスセンター
●認知症対応型グループホーム

保育園

ぱる★キッズ府中	〒183-0054	府中市幸町2-13-29 1F
ぱる★キッズ足立	〒121-0011	足立区中央本町4-3-23 1F

関連施設

パルひろば辰巳	〒135-0053	江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル2F
パルひろば足立	〒121-0011	足立区中央本町4-3-23 3F
パルひろば下馬	〒154-0002	世田谷区下馬4-13-6

pal*system SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

発行 生活協同組合パルシステム東京 広報室
2019.09